

令和8年2月26日（木）

那覇市健康部 那覇市保健所 保健総務課

担当：大原、砂川、宮城、速水、金城

電話：098-853-7972

報道関係者 各位

本日、「水痘（みずぼうそう）注意報」を発令しました

那覇市内の定点小児科医療機関6ヵ所の報告より、最新週（第8週 令和8年2月16日～2月22日）は、**1.17**でした。

注意報レベルの基準値である1.0を超え、今後4週間以内の大きな流行の可能性があることから、本日付で「水痘注意報」を発令します。本注意報は、令和7年度はこれまでに警報1回、注意報4回を発令しており、今回の注意報発令は5回目となります。

※ 警報：第1週（1月） 注意報：第23週（6月）、第25週（6月）、第41週（10月）、第52週（12月）

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、発熱とかゆみを伴う発しんが全身にあらわれる感染症で、肺炎や脳炎などの合併症を起こすこともあります。水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。

今年2月、市内児童関係施設において集団発生の報告がありました。

成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

疑う症状がある場合は、事前に医療機関に連絡した上で、受診してください。

水痘ワクチンの1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。

那覇市の1歳～3歳未満の水痘ワクチン定期接種対象者の接種率は、令和5年度83.27%、令和6年度79.34%と下がっています。定期予防接種はすべて無料で、市が委託した病院で事前予約をして受けることができます。まだ接種していない方は早めの接種をご検討ください。

那覇市保健所 水痘(みずぼうそう)



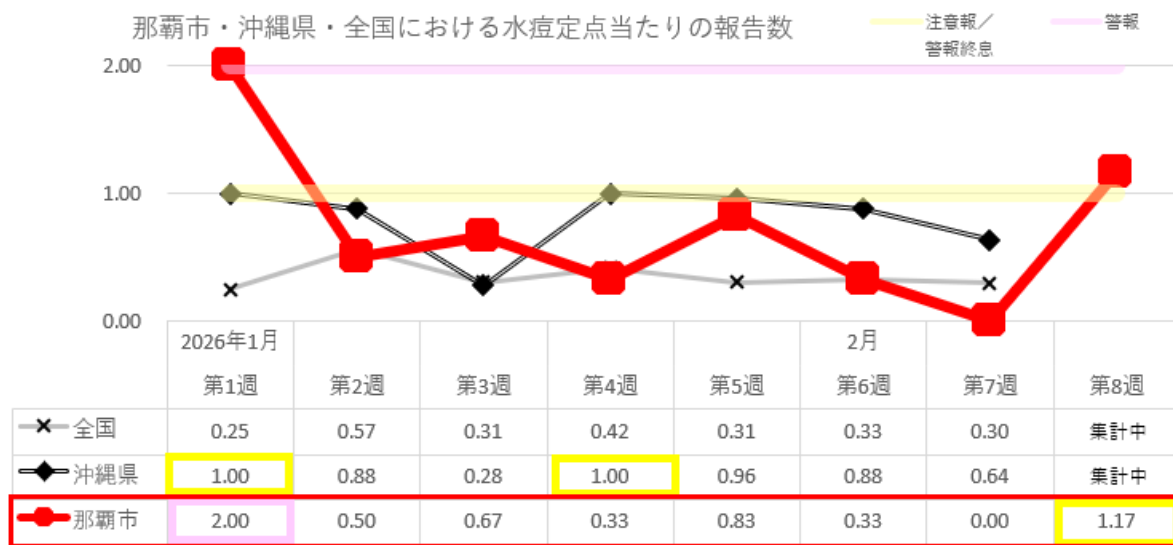
那覇市【小児】予防接種、医療機関



【参考】

1. 那覇市保健所「水痘（みずぼうそう）注意報発令中」
<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyou/kansensyoubetu/sui.html>
2. 那覇市保健所 健康増進課「【小児】予防接種の種類、実施医療機関」
<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/yobou/1007419/1006406.html>

1. 那覇市の流行状況



		【定点把握】 年齢別の水痘報告数						【全数把握】 水痘入院例	その他の報告数	
月	週	報告数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	発生届	学級閉鎖等	施設等の集団発生
1月	第1週	12	2	8	2	0	0	0	0	0
	第2週	3	1	2	0	0	0	1	0	0
	第3週	4	0	2	1	1	0	0	0	0
	第4週	2	2	0	0	0	0	0	0	0
2月	第5週	5	1	3	1	0	0	0	0	0
	第6週	2	0	1	1	0	0	0	0	0
	第7週	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第8週	7	3	2	1	1	0	0	0	2
合 計		35	9	18	6	2	0			
割 合		100%	26%	51%	17%	6%	0%			

(件)

【参考】那覇市の感染症発生状況(週報等)

<https://www.city.naha.okinawa.jp/nahahokenjyo/kansensyyou/hassei/nahashijoukyou.html>


2. 水痘(すいとう)とは

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる、かゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。

空気感染、飛まつ感染、接触感染により広がり、感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2週間程度(10日～21日)くらいとされています。

主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。合併症は、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、髄膜炎、脳炎などがあります。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。

成人での発症も稀にみられ、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

妊婦が水痘を発症すると、妊婦自身や胎児・新生児が重症化する可能性があります。

3.主な症状

発しんの発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発しんは紅斑(皮膚の表面が赤くなる)から始まり、水疱(水ぶくれ)、膿疱(粘度のある液体が含まれる水ぶくれ)を経て痂皮化(かさぶた)して治癒するとされています。

4.感染予防

1. 水疱(水ぶくれ)に触れた後の確実な手洗いやタオルの共用を避けましょう。
2. 水痘ワクチンの1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。
 - 水痘ワクチンの定期接種は、1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの子どもを対象としています。
 - 水痘の感染歴や予防接種歴を確認しましょう。
 - 水痘が流行している家庭内や施設での予防では、72時間以内の水痘ワクチンの緊急接種による発症の防止、症状の軽症化が期待できます。

5.水痘にかかったら

- 水痘を疑う症状がある場合は、事前に医療機関に連絡した上で、受診してください。
- 通常、発しんに対し外用剤を用いて治療します。抗ウイルス薬(アシクロビル)は重症水痘、水痘の重症化のリスクのある免疫不全者には第一選択薬となります。
- 感染を拡げないために、学校や保育園を休むようにしましょう。
学校保健安全法により、水痘と診断された場合の登校・登園は、全ての発疹が痂皮(かさぶた)化するまでは出席停止となります。

6.保健所における把握

1. 水痘の流行状況については、那覇市内小児科医療機関6カ所の協力を得て、患者情報を週単位(月曜から日曜)で収集し、全国約2,300カ所の定点情報と併せて分析しています。
 - 注意報レベル:定点あたり1.0以上
 - 警報レベル:定点あたり2.0以上
 - 警報終息レベル:定点あたり1.0未満

※ 警報・注意報について、国立健康危機管理研究機構より、「定点数の設計等が変更された2025年4月7日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。なお、従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。(一部抜粋)」とされているため、那覇市保健所では令和7(2025)年4月6日以前とおり警報・注意報を行います。
2. 入院を必要とする水痘患者は、医師からの発生届により全数把握しています。
 - 厚生労働省「感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について【水痘(入院例に限る)】」<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-140912-2.html>
3. 社会福祉施設や学校、医療機関等から、集団発生事例などを情報収集しています。